【条南中学校区地区懇談会資料】

令和５年３月７日（火）

これまでの懇談会での保護者等からの質問や課題について

気仙沼市教育委員会

※資料の更新により，前回までの資料とは項立てや問の順番，表現等が異なっているところがあります。

☆印は前回の懇談会で出された質問。下線部はその回答と新たに追記した回答です。

【１　統合の時期と必要性等】

番号	小･中	質問や課題	市教委の考え方・方向性
問1	小 中	いつ統合するのか？ 統合の時期が懇談会の資料に示されていないのではないか。	○保護者･地区の皆様の理解が得られたら，概ね1年間の統合準備期間を経て統合します。令和6年4月の統合を目指しております。
問2	小 中	住民が理解したとする判断基準は？	○統合に関わるあらゆる課題について，地区の皆様と教育委員会とが情報と解決のための方向性を共有できた状況を，判断の基準にしてまいります。多数決はなじまないと考えます。
問3	小 中	統合までの流れは？	○保護者・地区の皆様との懇談で理解をいただいた後，議会の議決をいただく必要があります。概ね１年間の統合準備期間においては，保護者，地区住民，学校関係者の代表で組織する統合準備会で統合の具体的な方法を検討し，学校においては，教育計画の立案や対象校の児童生徒間の様々な交流等を進めます。
問4	中	統合の理由は？	○子どもたちのために学校統合は必要です。その主な必要性として，①集団での活動に支障，②社会性を磨き切磋琢磨する環境の弱まり，③授業の協働的・探究的な学習への大きな転換があります。教科担任制をとる中学校においては，各教科の担当教員が増えることも間接的ではありますが統合のメリットと言えます。今後も児童生徒数が減少する見通しであり，できるだけ早期の統合を目指します。統合のメリットは，問７もご覧ください。 ○少子化により，現在本市には文科省が示す適正規模の中学校はなく，条南中学校と気仙沼中学校の統合校が適正規模に近い，中学校のパイロット機能を担う学校，さらには新計画の中学校づくりのモデルにもなるものと考えます。 ○協働的･探究的な学習は，子どもが受け身で知識を覚えるのではなく，子どもたち自身が友達と意見交換し，考えを深めていく中で自ら知識や概念に気づき獲得していく学習です。互いに納得できる解答を求めながら進められますから，この学びは，自分らしく生きる自律の学校風土をつくり，自他を尊重し合い，社会性を身に付けていくこととなり，いじめや不登校の未然防止にもつながります。生徒数が減少する中，様々な人と触れ合い，新しい人間関係を構築する環境づくりの面からも，統合は必要です。 ○削減された経費については，市教委では査定していません。決して経費削減のために統合するということではなく，子供たちのよりよい教育の提供のためという考えを持っているいことを御理解願います。 ○経費削減の大きな部分が人件費となります。教職員の人件費は県費負担であり，市としての削減にはなりません。
問5	小	学年30人いるのに統合のメリットは？ 協働的･探究的な学習が「いじめや不登校の防止につながる」のはなぜか。	
問6	小 中	教育予算の削減が目的か？子どものための統合ではないのか？	

問7	小 中	WHOや海外では少人数学級を推奨しているのではないか？ 統合しなくても「個別最適な学び」「協働的な学び」はできるのではないか。 ICTを活用した教育の推進は，統合に直接結びつかないのではないか。	○少人数学級は教育効果を高めることが期待できる一方で，協働的・探究的な学習には一定程度の生徒数が求められます。 ○協働的・探究的学習は，国の施策では「令和の日本型教育」と呼ばれています。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させて，全てのこどもたちの可能性を引き出す学校教育を実現しようとするものです。 ○子どもたちには個性があります。学ぶペースも違えば，興味関心も違います。個人のペースでそれぞれの得意な学習を伸ばしていく学習スタイル，自分で課題に気づき，それぞれの方法で解決に向かい，学びを深める学習が求められます。 ○一方で，個人の考えは，子ども同士が，自分の思いを実際に言葉で交わし合ったり，体験活動などを通して磨き合ったりしていく中で，自らの足りない部分に気づき，深まっていきます。その中で相手を尊重する気持ち，自己決定の力が育まれていきます。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」は組み合わさって初めて機能するものと捉えています。ですから，子どもたちの学びを深めるためには，ある程度の人数・集団による学び合いができる環境が必要です。豊かな協働的・探究的学習に励む経験，それを９年間積み上げることは，子どもたちの将来の可能性を間違いなく広げると考えております。また，人数が多くなることで，より多くの子供たちとの関わりや切磋琢磨が生まれることも期待しています。 ○ICTは，ドリルソフトや動画によって個別的な学びを促進するだけでなく，子ども同士，子どもと教員間のコミュニケーションを促進できます。それは遠隔地間だけではありません。同じ教室に学ぶ全ての子どもの考えを一瞬で確認し合うことも可能にします。もちろん最終的には，直接的に協力し合って行動する喜びを得させることを大切にすることは，これまでと同じです。 ○学級の上限人数を規定する国の現行制度では，学校規模（学年当たりの学級数）が極端に小さくならなければ，少人数学級は実現しません。同時に学校の教員数も減ることになります。 ○現在，学級の上限人数について中学1年生35人，2･3年生40人です。 ○本市中学校全体の学級当たり平均人数は26.5人（R12;26.2人，R16;22.4人）で，40人に近い学級は少数なのです。学年単学級（1つの学年も含む）は，気仙沼中学校は現在も，条南中学校はR6から始まる見込みです。統合校は，R8;32.4人，R12;35.7人，R16;27.5人の見込みで，単学級にはならない予想です。 ○現在も市内全校で個別最適で協働的な学習に取り組んでおりますが，統合によって1校当たりの教員数が増えることで，教員同士の学び合いも深まり，創意ある新たな授業の工夫やICT活用につながり，授業改善・教育の質の向上をもたらします。統合校を，本市中学校の先駆モデル校にしたいと考えます。

問8	中	統合によって，教員数は増加するのか。	○教員数は，学級数で決まります。 ○学校統合によって，学級数が増加した場合，1校当たりの教員数，教科当たりの教員数が増加します。より多くの専門教員が配置されることは，問7に記載のように，教育の質を高めることにつながるはずです。 ○統合する両校の合わさった教員数が統合校の教員数になるわけではありません。
問9	中	統合によって専任の教員数はどうなったのか，統合の例での具体的なものを示してほしい。	○これまでの統合では，小規模校との統合ケースがほとんどで，学級数はそれほど増えないため，教員数も大きくは増えていません。中学校だけではありませんが，例えば， ・H28津谷中・7学級（教員10名＋講師3名），小泉中・3学級（教員7名＋講師2名） →統合後H29津谷中・8学級（教員13名＋講師4名） ・H23気仙沼小・13学級（教員18名＋講師1名），南気仙沼小・14学級（教員18名＋講師1名） →統合後H24気仙沼小・17学級（教員22名＋講師2名） ※　校長・教頭を除いた教員数。 ※　様々な加配教員があるため，一律に考えられるわけではありません。
問10	中	統合によって，教員の負担が増加するのではないか。	○統合を経験した教員への聞き取りを行いましたが，生徒の人数増による負担を感じている教員はいませんでした。以下のような感想がありました。 ・人数ではなく，良好な関係を作るための配慮や気遣いがありました。 ・授業では，少人数より母数が多いので多様な意見交換ができました。 ・事務作業は増えましたが，負担と言うほどではありません。 ・2クラスになることで1クラス当たりの生徒数は少なくなりました。 ・複数のクラスがあることは，目の届きにくい部分があるかもしれませんが，同じ学年の教員がいることは助かる部分が多いし，指導の分担も工夫することができました。
問11	中	生徒数が少ない中学校があるのになぜ統合？	○現計画は，生徒数だけでなく，通学範囲等を総合的に検討した結果です。

【2　条南中学校に関する統合計画，今後の新計画】

番号	小･中	質問や課題	市教委の考え方・方向性
問12	**中**	**☆条南中学校と気仙沼中学校の統合について，どのような認識で計画したのか。**	**○第１段階は小規模化に伴う課題を緊急に解決するための統合，第２段階では複式学級の解消や規模の小さい中学校の課題を解決するための統合，現在の第３段階では，学校規模，配置の適正化を一層進めるための統合という括りの中で条南中学校と気仙沼中学校の統合について，計画に基づいて進めています。**
問13	中	条南中学校と気仙沼中学校の生徒数が拮抗するというが，分かりやすい説明が必要。	○本郷・南郷地区の多くの児童は通学区域である気仙沼小学校に通学しています。そのため，中学校は指定校変更をして気仙沼中学校に入学する傾向があり，今後も同様のことが予測されます。そうなると条南中学校と気仙沼中学校の生徒数が拮抗することになります。
問14	中	気仙沼中学校への統合理由に「ほぼ中央部」とあるが，中央部という根拠は？	○気仙沼中学校と条南中学校の２つの学区の中で，条南中学校の位置と気仙沼中学校の位置を比較すると，気仙沼中学校が中央部に近いということです。なお，本市の人口重心はセブンイレブン気仙沼松崎店付近ですが，条南中学校区と気仙沼中学校区を合わせた地区の人口重心は公表されていません。
問15	**中**	**☆二つの学校が一緒になって，はたして生徒たちのコミュニケーションが本当に確保できるのか。いじめ・不登校の現状を掘り下げた資料で説明していただきたい。**	**○いじめや不登校の数値は，同じ学校でも，時期や学年，年度等によって差があり，要因や背景についてもそれぞれ異なることから，現在統合対象となっている学校も，一概に傾向を捉えられるものではないと考えております。** **○統合で児童生徒が増えることにより，より多様な考えや価値観を持つ子供たちに接することになります。児童生徒は，学習や特別活動など，より大きな集団での学校生活を通して多様な考えに触れ，時には子供同士で意見のぶつかり合いもあるかもしれませんが，次第に他者の意見を尊重しながら対話し，多くは皆で上手にまとめ上げる経験を積むことで，社会性や協調性，たくましさが伸びていくと，通常期待されております。また，グループ学習や班活動が活性化され，消極的な児童生徒も発言しやすく，話合いへ積極的に参加することにより，安心感を高めながら，より人間関係が深まることが期待されます。さらに，単学級では固定化しがちな人間関係ですが，統合することでクラス替えが可能になり，豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすくなります。**

問16	中	なぜ少人数の気仙沼中学校に統合されるのか？ 通常の考え方であれば，生徒が多いところに少ないところが行くのが普通だと思うが？	○将来的な生徒数推移見通し，学区内における学校の位置や状況，将来的な市内全域の中学校配置等，総合的に検討したものです。また，現気仙沼中学校の周辺の施設を，教育活動に利用することも利点です。 ○急激に進む少子化から，この先に新たな統合計画を策定しなければならないと考えています。これは何年も先のことではなく，相当近い将来と想定しています。 ○新計画は，検討委員会を立ち上げ検討することになりますが，学校統合の組合せ，位置，災害の安全性，文教施設等あらゆる可能性を考えた時，気仙沼中学校が統合校になることが濃厚です。
問17	中	条南中学校に統合すべき **☆「方向性を共有する」ことが大切。私たちと共有できる統合のよさを教えていただきたい。**	○条南中学校と気仙沼中学校が統合すると，適正規模に近い拠点校になり，今後統合により大きく生徒数が増える学校づくりのパイロット機能を担う学校になることが期待できます。 ○統合校では，明朗な精神と強健な身体，新しい時代及び個々の希望進路に対応できる学力の基礎，豊かな情操と協働の精神，自然と人間を愛し郷土を思う態度を，基本目標のイメージとしています。 ○統合校では，自律と協働の学校風土を形成する，「探究的・協働的な学習」や「個別最適な学習」に先駆的にチャレンジし，生徒が学びの原動力を得て知的好奇心を発揮できる場の在り方や，生徒一人一人の学びを促す教師・学校の役割等を追究することを基本方策のイメージとしています。 ○取組例として，①「生徒自治」を発展させる学校，②ＩＣＴの活用を含め，協働的な学びを充実する学校，③立地を生かす，「考える力」を育む学校，④１校当たりの教員数増加を生かす，個に応じた指導が充実する学校，⑤地域との新たなつながりをつくっていく学校を想定しています。ＩＣＴ教育に先進的に取り組む条南中学校と，生徒自治が伝統の気仙沼中学校が一緒になることによる相乗効果を期待しています。 **○条南中学校と気仙沼中学校の統合後の学校づくりにおいて，この２校であれば，かなりのことができるようになると思っています。専門の教員による学習指導ができること，好きな部活動ができることなどは，わかりやすい効果だと考えています。**
問18	中	新計画を待ちながら統合を進めていってはどうか。	○新計画による学校統合には，一定の時間を要します。統合を早く実現し，生徒には統合のメリットによる豊かな中学校経験を積ませたいと考えています。 ○生徒のよさや能力が今以上に発揮される学校づくり，生徒の意見を聴きながら，生徒が希望をふくらませる学校づくりを目指します。 ○新計画での学校統合の検討において，条南中学校と気仙沼中学校の統合校がモデルとなると考えられます。

問19	小 中	もっと先を見据えた学校統合計画が必要ではないか。	○児童生徒数の減少が深刻度を増す中で，協働的・探究的な学びによる教育改革を進めており，その改革を実効性あるものにするためにも現計画に基づく早期の学校統合を実現することが一層必要になっています。 ○本市における児童・生徒数の推移見通しから，現計画の先に，学校規模を主眼とした市全体に及ぶ学校統合方針を考える必要があると認識しています。 ○新たな統合計画に基づく学校統合には一定の時間を要します。小学校では地域ごとの歴史的な背景や通学距離を考慮しながら，中学校では学校規模を主眼とする大くくり化等，方針策定にあたって検討すべき事項は多岐にわたり，策定には専門家を交えた関係市民における相当の議論と高い見地からの覚悟が求められます。 ○その期間，現在就学している児童生徒の環境を今のままにしておくことは，本市教育行政において看過できることではありません。児童生徒や保護者の立場からすれば，いつ実現するかもわからない新たな学校統合を待つ不安定な状況の中で学校生活を送ることが，児童生徒のためにならないことは明らかであります。 ○現段階においては，新たな統合計画に移行する時限は決めていません。第３段階の実現に全力を尽くし，近い将来しかるべき時に状況を見極め，その後に新たな統合計画を集中して検討することが適切であると考えます。 **<u>○統合に進むことになった対象校や，現在地区懇談会を行っている対象校の統合準備期間等であっても，新たな計画づくりの準備を始めたいと考えています。</u>**
問20	小 中	一時しのぎの統合ではなく，もっと長期を見通した計画，話し合いの方が良いのではないか。 保護者が納得できるような状態にして，新計画に参加するのが一番良いのではないか。	
問21	小 中	どことどこが統合するという次の計画はあるのか。	○具体的な計画は持っていませんが，あらゆる可能性を洗い出しています。 ○今回の計画と同様，新計画は市教委だけでつくられる計画ではありません。市民や学識のある専門家等にも検討委員会に入っていただく必要があります。 ○第３段階の状況を見極め，近い将来しかるべき時が来た時，検討を開始していきます。
問22	小	今，反対の意見が多くても統合を進めるのか？	○学校統合の検討過程，特に初期段階において，統合に対する疑問や不安が出されるのは当然であると捉えています。それらについて意見交換を進める中で，統合への理解が深まるものと考えます。

問23	中	条南中学校ＰＴＡが統合に関するアンケートを実施したが，３／４が統合に反対だった。もう一度立ち止まって話し合いはできないか。	○市教委としては，学校統合は多数決で決められるようなものではないと，これまでも説明してきております。 ○学校統合は，これからの子どもたちへの教育を深く考え，熱く議論して固めていくものと認識しており，その場が地区懇談会と考えております。 ○アンケートは，問い方によっても結果は異なります。また，一部の設問の部分だけを切り取って結果を示すことは，一般的なアンケートの説明としては非常に不十分なものであるという認識は持っています。
問24	小 中	住民が理解したとする判断基準は？	○統合に関わるあらゆる課題について，地区の皆様と教育委員会とが情報と解決のための方向性を共有できた状況を，判断の基準にしてまいります。多数決にはなじまないと考えます。
問25	小 中	統合までの流れは？	○保護者・地区の皆様との懇談で理解をいただいた後，議会の議決をいただく必要があります。概ね１年間の統合準備期間においては，保護者，地区住民，学校関係者の代表で組織する統合準備会で統合の具体的な方法を検討し，学校においては，教育計画の立案や対象校の児童生徒間の様々な交流等を進めます。